

柏高加油！（ポーガオ・ジャーヨウ）

研究推進部長 丹生 憲一

11月20日（金）「台湾とは何か」の著者、野嶋剛先生をお迎えして丹 BAL 台湾の講演会を開催しました。

お話は、台湾の地形・歴史・食べ物の紹介に始まり、渡辺直美、安藤百福、ジュディ・オング、蓮舫…と日本で活躍する台湾出身の（あるいはルーツのある）著名人の紹介、災害のたびに支えあう両国の関係、世界を驚かせた台湾のコロナ対策へと進みました。特に、コロナ対策については野嶋先生の新刊「なぜ台湾は新型コロナウイルスを防げたのか？」を読むと詳細がわかります。武漢で新型ウィルス感染が拡大しているらしいと聞くや否や、緊急招集された内閣と対策委員会。24時間以内になされた情報収集と決断、市民への対応…そのようすは、映画化されるであろうと思えるほどスピーディーな展開です。デジタル大臣オードリー・タン氏の名前もあがっていましたが、日替わりで「ヒーロー」が生まれた台湾政府関係者を見ていると、いまだに「桜の会の領収書が…」ともめている我が国が情けなくなります。東日本大震災の後、台湾から250億円の義援金が届けられたということは有名な話ですが、日本側からも「海外修学旅行で訪れる国・地域」としては断トツで1位ということからも、お互いに好感を持ちあっている隣人同士であることはよくわかりますね。それはオンライン交流をした2年生の皆さんは実感したのではないのでしょうか。

お話の半分を過ぎたころから、睡魔に襲われる人が多くなり、心配になった時間帯がありました。そんな人も一斉に顔を上げた瞬間があります。それは、「**台湾の若者は必ず選挙に行く。それは、選挙で物事が変わるということを実感しているから。日本の若者…に限らず、大人が選挙に行かないのは、投票しても何も変わらないと思っているから**」…というくだりでした。先日の丹波市長・市議選でも投票率は65.35パーセントだったと言います。「**台湾の人は選挙にいかないことを恥ずかしいと思う。みんなが選挙に行くから。**」というのを聞くと恥ずかしい話です。…その後に続いた話も忘れてはならないでしょう。

「**台湾の人はなぜ、民主主義を大切だと思うのか？それは、長い抑圧の末にやっと勝ち取ったものだから。私たちは投票権や民主主義は、生まれたときから与えられているもので、守ろうという意識もない。誰かが守ってくれていると思っている。だから、選挙に行っても行かなくても関係ないのでしょ**う。」

丹 BAL 台湾のオリエンテーションでお話した、「台湾を知ることで日本を知る」ということの一つはこういうことではないでしょうか。「台湾と日本は違うから」「台湾はいいなあ」で終わらせるのか？これを鑑に自分たちの生き方を考えるのか？考える機会になるといいですね。講演の最後におっしゃった「柏高加油！（柏原高校、がんばれ!）」にはそんな意味が込められていると思いますよ。

野嶋先生からのお題は次の3つです。

1. なぜ、台湾の若者は熱心に選挙に行くのか
2. 台湾は日本の植民地だったのに、台湾の人が日本に好意的なのはどうしてか
3. 自分が台湾人だったら、中国の人たちに何を伝えたいか



講演後には質問が相次ぎました。時間切れのために、講演後に残って受け付けた質問の答えをいただきましたので、紹介します。良い質問をありがとうございました。「なぜ台湾は新型コロナウイルスを防げたのか？」は学校図書館にも1冊いただいていますので、読んでみてください。

移民など外国人と良好な関係を築くには？

台湾を見ていると、やはりもともと多様な社会なので、外部の人との付き合いに慣れている点もあると思いました。必要なのは、相手の文化へのリスペクト、適度な距離感が重要かと思います。彼らも仕事で来ているので、家族扱いされるのも、決して嬉しいとは限りません。日本人はたぶん排除するか、家族同然に扱うか、両極端になりがちです。適度な距離感でウィンウィンの関係を作れるのが大事ですね。でも、突然現れた外部の人に対して、だれもが適度な距離感を持てるわけではありません。慣れるための時間が必要です。国際交流が重要なのは、他者との接触を通して、その距離感を知ることができるからです。ぜひご自身でも体験を重ねてみてください。

台湾に行ってみたら違っていたというギャップ

台湾は優しい人が多いということで、旅行に行く間はけっこういい思いばかりしていたのですが、長く生活すると、お金のすくなくシビアだとか、メンツをすくなくきにするとか、台湾人の普段は見えないところもいろいろ見えてきます。また、彼らの優しさの裏には、優しくしておいた方が得策だという計算もあるということも感じることがあります。台湾の人たちは、基本的には、日本人には好意的で、とてもありがたいことですが、それに甘えてしまうと、逆にしつぺ返しを食って、一気に台湾を嫌いになってしまう人も多いので、過度の期待よりも、多少は冷静な気持ちで最初には台湾に行くのもいいかもしれません。

台湾のおすすめ、行くべきところ

花蓮や台東（地図みてみてね）の東海岸ですね。先住民族が多く暮らしているので、漢民族中心の台北や高雄とは全然違う雰囲気を楽しめます。そして、ひらけた大地や明るい海。東海岸は最高です。また南部もいいです。フルーツやスイーツも北部の台北や台中より美味しく感じます。歴史も、台湾はもともと南から発展したこともあって、台北よりも古い時代を感じさせるものに出会うことができます。

いろんな国があるのになんで台湾を選んだか。

やっぱり学生時代に留学したことが大きいですね。その時にけっこういろいろな友人ができて、今でも付き合いがあるし、彼らがいるから、台湾をもっと知りたいと思ったところは大きいです。そのときはたまたまあまり深く考えずに台湾に行っただけでしたが、結果として人生を左右することになりました。つくづく、人生は偶然と出会いだと思っています。

同性婚やLGBTになぜ台湾は積極的か

台湾も世代間の違いは大きくて、50歳以上の人たちは消極的だったり、もっと時間をかけたほうがいいのかという考えの人も多いです。でも、若い人たちはとにかく「いますぐ」ということを政府に要求しています。なぜなら、いま自分たちの周りにはLGBTの友人たちに、もっと自由に恋愛や結婚を楽しみ、法律の支えももらってほしいからです。彼らは政治のことをよく勉強していて、投票によって同性婚に支持する議員を応援することで、どんどん議会に支持者の議員を増やしていきました。なんでもそうですが、世の中には賛成意見と反対意見があり、その実現のためには、いろいろ努力することが必要で、台湾の若者がえらいのは、理想の実現に向けて実際に手を打っているところですね。

私なら、中国にどのように台湾の気持ちを伝えるか

友人関係でも、家族関係でも、近づいたり、離れたりはあります。多少関係が冷え込んだ時でも、一気に縁を切らなければ、将来また仲良くなる可能性もあります。今の中国と台湾は確かにあまり関係がよくありません。しかし、将来もそうとは限りません。いま台湾の人たちの気持ちが中国から離れている理由は複雑ですが、台湾人に中国人から「仲良くしよう」と呼びかけても簡単には応じてもらえない状況であるのは確かです。そんなときに、できれば台湾の人たちの気持ちを察して、少しお互い冷静になるための「冷却期間」を置いてはどうでしょうか、彼らも中国という存在と切っても切れない縁があることは理解しているので、将来、もっと仲良くなるだけのタネを蒔くような気持ちで、いまはそっとしておいてあげることができないでしょうか。こんな風に中国に伝えてみたいと思います。